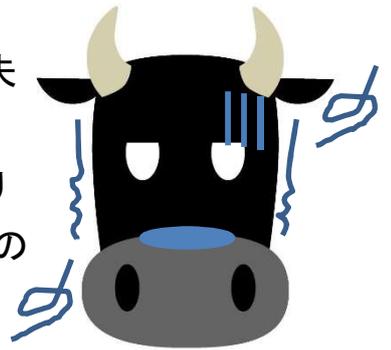


冬場の子牛の管理について

今年も寒さの厳しい季節となりました。子牛の寒さ対策は大丈夫でしょうか？**子牛は成牛と比べて寒さに弱く**、特に哺乳子牛は13℃以下から寒さを感じ、**9℃以下になると体温維持のためにより多くのエネルギーを必要とします**。寒冷対策には安価に行えるものもあるので、自身の農場にあった寒さ対策を取り入れ、寒い冬を乗り切りましょう！



なぜ寒さに弱いのか？

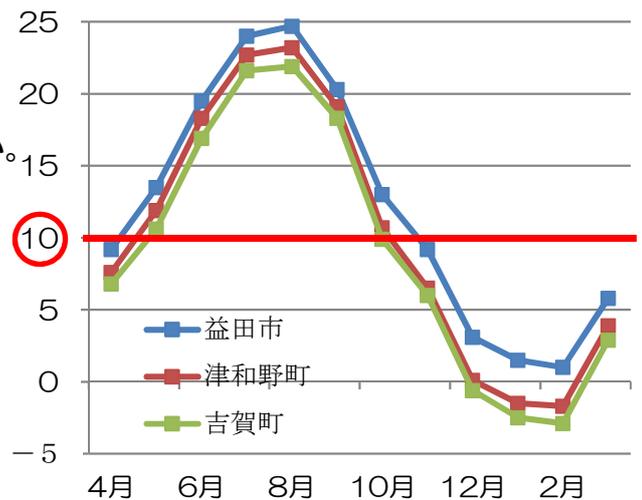


- ・ 体重当たりの表面積が大きく熱を奪われやすい。
- ・ 体脂肪が少ない。
- ・ 第1胃が未発達なので発酵熱の発生が少ない。

どのような影響があるのか？



- ・ 増体の遅延
- ・ 免疫力の低下
- ・ 下痢や肺炎等疾病の増加



地域別の日最低気温の推移（2022年）（出典：気象庁HP）

簡単にできる寒さ対策の例

●ベストやネックウォーマーの着用

ネックウォーマーは市販されている人間用の物で大丈夫です。体からの熱放出を防ぐことで、子牛の消耗が少なくなります。

●湯たんぽやヒーターの設置

不要になったポリ容器に60～80℃のお湯を入れてハッチの中に置くだけでも有効です。ハッチ内の温度を上げるだけでなく、子牛が触れることで体温を上げる効果もあります。

●敷料をたっぷり敷く

冷たいコンクリートの床や凍結した土は、子牛のお腹を冷やし体温を下げる原因となります。敷料をたっぷり敷き、底冷えを防止しましょう。



編集後記

今年もあと少しで終わりです。今年を振り返ってみて特に記憶に残っていることは、自宅でのカメムシとの戦いです。多いときは1日で20匹位捕まえました。（門脇）